



おいしいふくい食べきり運動キャラクター
のっこさん

おいしいふくい食べきり運動の 福井県連合婦人会との共動

福井県安全環境部循環社会推進課

「おいしいふくい食べきり運動」とは？

生ごみ削減を目的に、H18年度から実施

- 1** 家庭やホテル・レストランなどで、**おいしい福井の食材**を使って**おいしい料理**を作り
- 2** 作られた料理を**おいしく食べきって**
- 3** 残ってしまった料理は、
家庭では新たな食材として**アレンジ料理に活用**し、
外食時には**持ち帰って**家庭で食べ
きろう という運動

「おいしいふくい食べきり運動」とは？

県民が主役の運動

当初は行政を中心に、県民に対して啓発を実施

- ・ちらしや啓発グッズを作成して、「おいしいふくい食べきり運動」を知ってもらう
- ・運動に協力していただける飲食店や食品小売店を登録する

もっと多くの県民に「おいしいふくい食べきり運動」を知ってほしい。
県民一人ひとりに届くようにしたい。

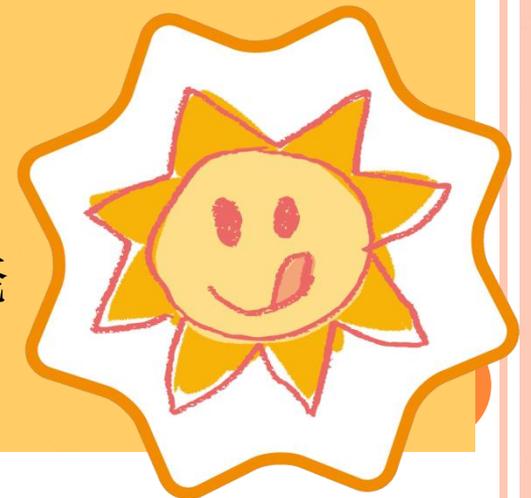
**福井県連合婦人会とともに啓発活動を行うことで
「おいしいふくい食べきり運動」を拡大しよう！**

福井県連合婦人会と共働で啓発活動

平成25年度から、福井県連合婦人会での事業開始

【実施内容】

- ① 婦人会会員の中から「食べきり運動推進員」を選出
- ② 食品ロス削減のモニター調査
- ③ 保育園での「食べきり学習会」の開催
- ④ 地域のイベント等での食べきり運動啓発
- ⑤ 全国に向けての発信

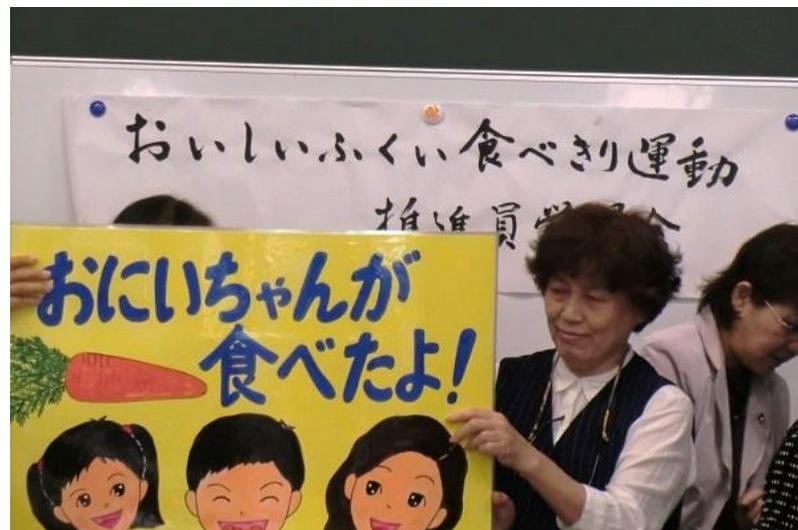


① 食べきり運動推進員

婦人会が会員から推進員を任命

推進員は、地域の「おいしい食べきり運動」の中心となって活動
(平成28年度 約120名)

- ・ 毎年、県内2カ所で推進員学習会を開催
- ・ 食品ロスの現状や県の新たな取組みについての学習
- ・ 活動方法をわかっていただくために、地域での啓発の実践例や保育園で披露している紙芝居やダンスを実演



② 食品ロス削減モニター調査

食べきりや水きりで、どれくらい生ごみが減るのか測定



食べきり、水きりを実践すると
生ごみは**30%減少**！！

H27年度 66名が調査

- 1 1週間の生ごみの量を計測
(賞味期限切れ、消費期限切れ、
食べ残し、調理くずに分類)
- 2 食品ロスを減らすためにできることを学習
- 3 次の1週間、食品ロス削減にできることを実践して、生ごみの量を計測

③ 保育園での食べきり学習会の開催

食べきり学習会の開催(H25～)

- ・保育園を訪問し、食べ物や「食べきること」の大切さを伝えてもらう
- ・寸劇、紙芝居、絵本の読み聞かせ、「食べきり運動のうた」のダンスを実施
- ・子どもたちから両親へと「食べきり運動」を知ってもらい、家族全体での取り組みにつなげる

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (予定)
食べきり 学習会開催数	13園	50園	30園 (7月～)	50園

③ 保育園での食べきり学習会の開催

○保育園にて（学習会の様子）



④地域イベント等での食べきり運動啓発

食のイベントや夏祭りなどの機会に、地域で食べきり運動啓発

- ・住民にとって身近な機会に身近な人から啓発
- ・ちらしやアンケートを手渡したり、声をかけたり、1人ひとりに直接啓発
- ・アンケート結果を婦人会の会報誌に掲載して、会員を通じて再度啓発



会報

「おいしいふくい食べきり運動」の推進に取り組んで
 県下一帯にこの運動の推進をお願いして一年になります。この事業を通してより一層、婦人会組織の
 強化に繋がったことといたします。
 ごみ減量化と地産地消を一人ひとりで意識して実践することで、本事業の意義を向上させたいと考
 えます。各府町の皆様の御協力のもと、ここに一歩の発展をとまることができました。感謝申し上げます。
 今後も継続の事業として継続的取り組み実践に向けて頑張っていきたいと思います。

幹事になったらひと工夫！

- ・出席者の性別年齢層と店名を適宜記載し、酒類の提供の頻度や心づけて、終了前にはしっかりと片付けを徹底して、持ち帰りや持ち帰りをしないという意識を醸成し、安全の確保に努めたい。
- ・「年齢性別を考慮して」と既述しているテーブルからとまえた人が多く、会場限定の幹事の配慮や声かけが必要である。
- ・「食中毒が心配」と答えた人が一番多く、持ち帰る行為に対して「恥ずかしい」「邪魔になる」など、見目を気にする人も多かった。

取り組みから期待(家産)

運動を知り家族の食へられる機会を増やすことにより、その結果家族で手料理を食べる機会が増え、もつたないの意識が高まった。

- ・買い物に行きながら、冷蔵庫の中を確認してから必要なだけを購入するようになり計画的な購入をするようになった。その結果安くも買えずに、意識するようになった。
- ・お山作った時ご近所等におすそ分けをすることで人間関係が深まっている。
- ・残った料理をアレンジして食べ切り、冷蔵庫一掃デーを決めて、ある物で料理したりして、食品ロスを抑えるようになった。

ふくい県連婦会報 [6]

おいしいふくい食べきり運動 アンケート結果と考察

「おいしいふくい食べきり運動」の推進に取り組んで
 県下一帯にこの運動の推進をお願いして一年になります。この事業を通してより一層、婦人会組織の
 強化に繋がったことといたします。
 ごみ減量化と地産地消を一人ひとりで意識して実践することで、本事業の意義を向上させたいと考
 えます。各府町の皆様の御協力のもと、ここに一歩の発展をとまることができました。感謝申し上げます。
 今後も継続の事業として継続的取り組み実践に向けて頑張っていきたいと思います。

平成25年度回答者数2137名

問1.「おいしいふくい食べきり運動」を知っていますか。(複数回答可)

知っている	422
名前だけ聞いたことがある	284
知らない	953
無回答	78
合計	2,137

食べきり運動の認知度は50%程度でまだ知らない方も多く、「知っている」と答えたのは女性が多く、年代は50歳以上の方であった。

問2.「消費期限」の意味を知っていますか。(複数回答可)

知っている	1,909
知らない	190
無回答	38
合計	2,137

「消費期限」の意味を知っている人が89%「賞味期限」と同様認知度があつた。

問3.「賞味期限」の意味を知っていますか。(複数回答可)

知っている	1,987
知らない	118
無回答	43
合計	2,137

「賞味期限」の意味を知っている人が90%を超えていた。

問4.食品の廃棄を減らすために何か実践していますか。(複数回答可)

1. 買い物に冷蔵庫の必要	733
2. 必要に応じて冷凍保存	688
3. 食品を冷凍して冷凍庫に保存	412
4. 作り過ぎない	629
5. 賞味期限が過ぎずには捨てない	643
その他	68
無回答	29
合計	3,599

食品の廃棄を減らすために何か実践されている人が70%弱でした。

問5.問4でしている方は、どんなことを実践していますか。(複数回答可)

1. 作り過ぎない	21%
2. 必要に応じて冷凍保存	20%
3. 食品を冷凍して冷凍庫に保存	19%
4. 作り過ぎない	15%
5. 賞味期限が過ぎずには捨てない	12%
その他	2%
無回答	1%
合計	100%

廃品の工夫をしたり、買い物には冷蔵庫を確認したりなど、必要に応じて食品を購入するなど、廃棄を減らすための工夫がみられた。

チャレンジ実践！

- ・買い物に行きながら、冷蔵庫の中を確認してから必要なだけを購入するようになり計画的な購入をするようになった。
- ・お山作った時ご近所等におすそ分けをすることで人間関係が深まっている。
- ・残った料理をアレンジして食べ切り、冷蔵庫一掃デーを決めて、ある物で料理したりして、食品ロスを抑えるようになった。

